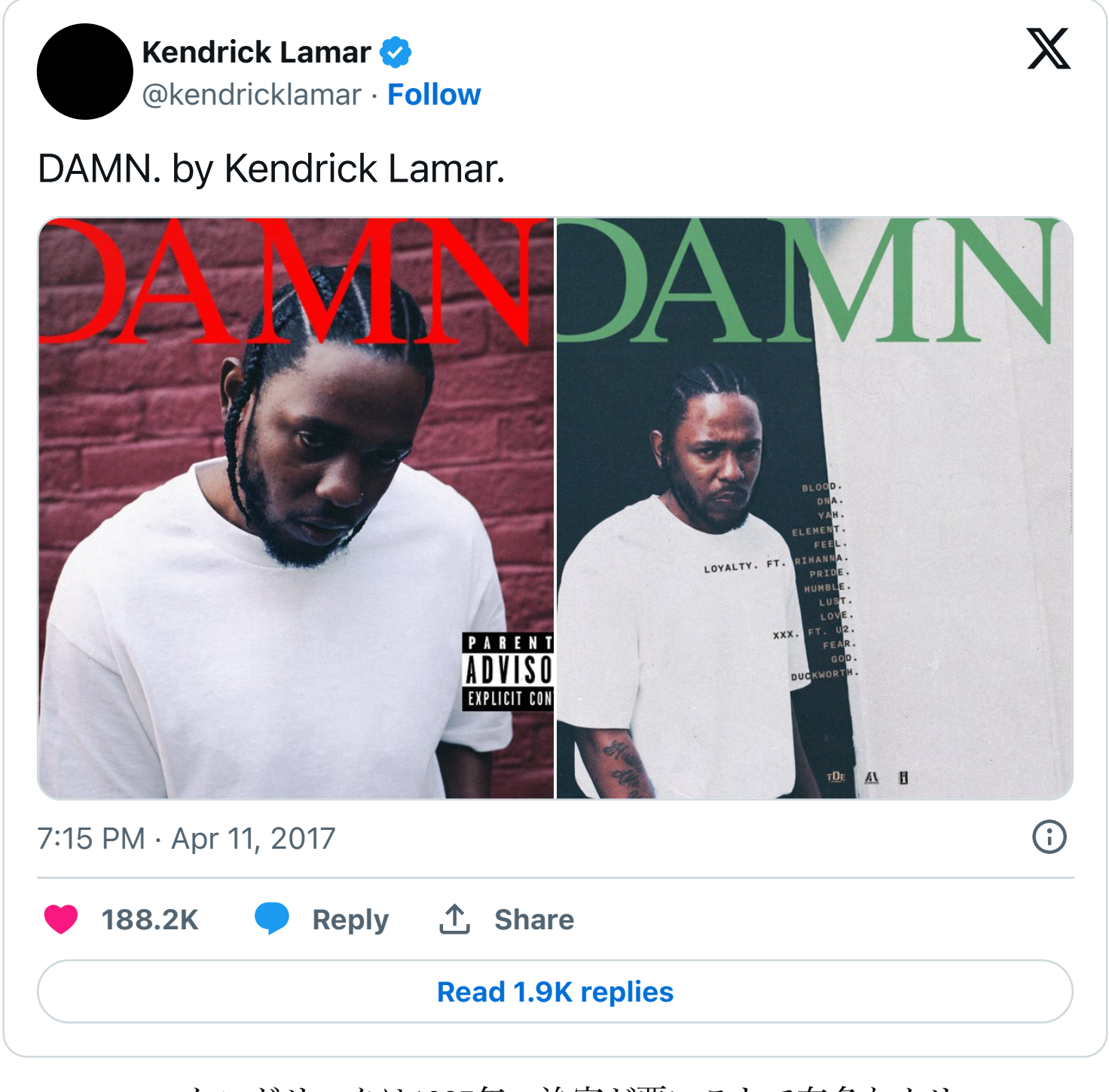


おすすめアーティストその3:Kendrick Lamar

最後にご紹介するのは、Kendrick Lamar（ケンドリック・ラマー）というラッパーです。



ケンドリックは1987年、治安が悪いことで有名なカリフォルニア州コンプトンで生まれ、父親はストリートギャングの元メンバーでした。8才の時に、コンプトンで行われた2pac、Dr.dreという2人の伝説的アーティスト（2pacは1996年、何者かに銃撃され亡くなる。）のミュージックビデオの撮影を生で観てヒップホップに興味を持ちました。子供のころは周りの人間がギャングになったりと道はずしていく中、学校を首席で卒業し、比較的真面目な生徒だったそうです。10代のころに本格的に音楽活動を開始すると序々に注目を浴び、2010年、彼がラップを始めたきっかけになった人物、Dr.dreのレーベルAftermath Entertainmentとの契約まで昇りつめました。ケンドリックは今までに4枚のアルバムをリリースしていますが、すべてが最高傑作として高い評価を得ています。「ヒップホップの新王者」と称されるほどです。それではすべての曲が素晴らしいと言われるそんな彼の曲を3曲ご紹介させていただきます。

目次

1. [i](#)
2. [All The Stars](#)
3. [Alright](#)

i



この曲からは、他人の言うことに惑わされず、自分を信じ、大切にしよう、ということを伝えられます。彼は世界中に蔓延する腐った人間や環境を様々なものに表現しながら、「じゃあ君はどうする？」と訴えかけてきます。

彼ら黒人は、我々日本人が想像もできないような過酷な環境にあつたり、偏見の目で見られることがあります。特に治安の悪い地域で育ったケンドリックが経験してきたことは計り知れません。彼はそのようなところで育ってきましたが、決して悪には染まりませんでした。だから、強者と弱者、悪人と善人を冷静に第三者の視点で見てきた彼が書く歌詞が多くの人に受け入れられたのです。

All The Stars



この曲は、映画「ブラックパンサー」のリードソングです。この曲の内容は愛と人間関係についてです。ブラックパンサーという映画は、とあるアフリカの国が舞台で、世界には自然大国だと思われているその国が、実はとてつもない科学技術を持っていて、それを奪おうとする者から国を守るというストーリーの映画です。

人種的にアフリカに起源を持つケンドリックは、この映画でも舞台となるアフリカに畏敬の念を持っていて、この曲では単なる人間の愛だけにとどまらず、宇宙規模での話のように思えてきます。ケンドリックと多くの曲を作ってきたSounwaveの作る重い重低音とシンプルで荘厳なメロディが、より一層彼の歌詞を引き立たせてくれます。もし興味を持った方は、是非映画の方も見てみてください。

Alright



この曲では人種差別や偏見との闘いについてが主な歌詞です。僕たち日本人にはあまり馴染みがない人種差別ですが、アメリカでは今もなお無くない根深い問題です。この曲は発表後、人種差別撤廃のテーマソングのような存在になり、多くの人種差別撤廃運動で皆がこれを熱唱しながら訴えています。この曲は絶対に一度は和訳などを見ながら聴いていただきたい一曲です。

このミュージックビデオでは、様々な箇所の人種差別についての表現がなされています。MVの最後では、ケンドリックが撃たれてしまいます。みなさんも何を表しているか、考えてみてください。しかし、彼は笑って"We gon' be alright"（大丈夫だ）といいます。彼は今のこの状況が陰しくても最後には大丈夫になるはずだ、とずっと訴えているのです。彼の称賛される理由のひとつに、これだけのメッセージ性のある歌詞をキャッチーなメロディに合わせて曲にできることが挙げられます。みなさんもこの曲を聴いて、つい口ずさみたくなると思います。現在もアメリカはBlack Lives Matter運動が行われ、この曲が多くの人々の間で歌われ、力になっています。日本人の僕たちには関係がないと言うのではなく、みなさんも人種差別について真剣に考えるきっかけになれば、と思います。

最後に

ケンドリック・ラマーはただひとりのアーティストという枠を越えています。彼の創る音楽は、一人のアーティストが作った曲には留まらず、芸術であり文化の象徴だと感じます。彼の発する言葉に多くの人が感銘を受け、多くの人々の心を突き動かしています。今回紹介した曲はあくまで彼の代表曲の一部であり、彼の作品はアルバムを通して完成されているものでもあるので、是非、アルバムを通して聴いてみることをオススメします。

[最初のページへ](#)

[前のページへ](#)